

調査・実践報告

サラマンカ大学スペイン語研修プログラム実践報告
ーグローバル市民性形成を目指した研修デザインの試みー

Spanish Language Training Program at the University of Salamanca:
An Attempt of Program Design for the Formation of Global Citizenship

吉田 理加^{1)*} ルイス・ダニエル²⁾ 加藤さやか³⁾ 木村 愛美⁴⁾

Rika YOSHIDA^{1)*} Daniel RUIZ²⁾ Sayaka KATO³⁾ Aimi KIMURA⁴⁾

Abstract

This paper aims to give an overview of the Spanish Language Training Program of the Faculty of International Liberal Arts (FILA), Juntendo University, held twice at the International Courses (CC.II.) of the University of Salamanca, Spain. This program in Salamanca has been designed carefully as an opportunity for the formation of global citizenship combining language courses and cultural activities offered by the CC.II., homestays with Spanish families, and tutorial sessions organized exclusively for the FILA group by bilingual and bicultural professional tutors, who also arranged conversation sessions with Spanish students learning the Japanese language. According to the questionnaires and final reports, participants evaluated positively this program in general. They not only improved their Spanish language skills but also achieved deeper insights into sociocultural knowledge and social values different from theirs, especially through communication with Spanish students in both Spanish and Japanese. As a conclusion, FILA's Spanish Training program in Salamanca may help its participants to cultivate respectful and generous attitudes towards the 'Others', which is one of the constituting elements of global citizenship. In order to succeed in this aim, it is necessary to design an adequate pre- and post-training.

Key words

スペイン語、社会文化能力、海外語学研修、異文化コミュニケーション、
グローバル市民性形成

Spanish language, Sociocultural competence, Overseas language training program,
Intercultural communication, Formation of global citizenship

¹⁾ 順天堂大学国際教養学部 (Email: r-yoshida@juntendo.ac.jp)

⁴⁾ 星槎大学大学院教育学研究科

²⁾ サラマンカ大学・翻訳図書情報学部 (Email: drui@usal.es)

(Email: clasesjaponessalamanca@gmail.com)

³⁾ サラマンカ大学・翻訳図書情報学部 (Email: sayaka@usal.es)

* 責任著者：吉田 理加

[September 15, 2017 原稿受付] [January 29, 2018 掲載決定]

1. はじめに

本稿では、2016年8月と2017年3月にサラマンカ大学インターナショナルコース（以下、「CC.II.」という）において実施した3週間のスペイン語短期研修（以下、「サラマンカ研修」という）を、順天堂大学国際教養学部（以下、「本学部」という）のコンセプトにかかわるグローバル市民性の形成という観点から振り返り、考察し報告する¹⁾。グローバル市民性形成とは、本稿では紙幅の都合で深く掘り下げてその定義を議論する余裕はないが、多様性と多元性を尊重し、様々なコンテキストで自己を相対化して他者を理解し、行動できる能力と態度の習得と定義しておく（cf. UNESCO, 2014, p. 14）。

本学部でヨーロッパ共通言語参照枠（CEFR）の理念に基づいた、読む、書く、聞く、話す、やりとりをするという5技能にまたがる学習カリキュラムに沿ってスペイン語学習経験を積み、第二段階として、教室外でも自らの言語・文化とは異なる学習言語であるスペイン語環境にイマージョンする機会がサラマンカ研修である。

サラマンカ研修の目的の1つにスペイン語能力の向上が挙げられるが、スペイン人家庭に原則1人でホームステイする²⁾経験を通して、自文化とは異なる社会・文化の習慣・規範・価値において「マイノリティ」として扱われる状況に身を置く中で様々な事象に対する複数の交差する眼差しの存在を意識し、他者への敬意と寛容性の態度を培うことも重要な目的であった。このような経験こそが、自文化中心主義から脱却し、グローバル市民としての自己アイデンティティを確立するための助けとなると考えられるからである。換言すれば、ヨーロッパ共通言語参照枠（CEFR）の5章（5.1.1.3）（トリム, 2014, p. 110）に記されている異文化に対する意識、すなわち自らの視点や文化的価値観を相対化しようと意識するプロセスを経験できる機会として、さらには新しい経験、他者や異質な考え、異なる民族・文明に対する開かれた態度と

関心というグローバル市民性形成に密接に関わる「態度」を養う機会としてサラマンカ研修を位置づけることができる。

このような目的で研修を実施するにあたり、町の治安が良く、標準的なスペイン語が話され、また、外国人へのスペイン語教育の長い歴史を誇るという点からサラマンカ大学 CC.II. を選択した。

本研修ではサラマンカ大学日西文化センターで日本語を教えている2名の教員に順天堂グループ専属の教員チューターを依頼した。教員チューターの役割は、スペインの社会文化的知識の伝授、日本語を学ぶスペイン人学生との交流の機会の提供、異文化摩擦の回避、ステレオタイプ等の偏見への気づきを促す等、サラマンカ滞在全般における助言であった。つまり、参加者は、スペイン人家庭にホームステイしながら、午前中は外国人対象のスペイン語クラスで学び、午後はチューター教員のデザインするセッションや CC.II. 主催の文化アクティビティに参加し、週末は同主催のエクスカージョンに参加するという研修プランであった。本研修の特色は、スペインの言語・文化を学ぶだけではなく、外から向けられる日本に対する眼差しに触れ、自らのアイデンティティについて考えるきっかけをも提供している点にある。

本稿では、これまでに2回実施したサラマンカ研修の概要を記述し、グローバル市民性の形成における本研修の意義について考察しながら、帰国後に実施した参加アンケート等を参照し、報告する。参加者は研修終了後に報告書を提出し、アンケートに回答した。アンケートは Google Form を用い5段階のスケールまたは選択肢から回答し、更に、自由形式で特筆事項を記述する形式で2017年4月に実施し、全参加者から回答を得た。第2回の参加アンケートには個人研修の学生1名を含む17名から回答があった。

2. サラマンカ研修概要

2.1. 第1回研修（2016年8月）概要

第1回目のサラマンカ研修は、2016年8月6日～28日の日程で実施され、本学部の1期生である当時2年生13人（女10人、男3人）が参加した。現地での1日のスケジュールは、9時～12時までスペイン語授業を受講し、その後14時ごろにホストファミリー宅に戻って昼食をとり、ファミリーとの団欒をし、18時ごろからCC.II.主催の文化アクティビティ（2016年8月のみ）や、順天堂オリジナルプログラムとして実施されたチューターセッションに参加し、夜21時ごろにホストファミリー宅で夕食という流れであった。

2.2. 第2回研修（2017年3月）概要

第2回サラマンカ研修は2月27日から3月25日の期間で実施され、1年生14人、2年生2人の合計16人（女11人、男5人）が参加した。第1回に参加した学生のうち1人が第2回にも参加した。さらに、同時期に本学から長期留学1人、個人短期研修2人がCC.II.で同じスペイン言語・文化コースを履修していたため、これらの3人を含む総勢19人が午後のチューターセッションやスペイン人学生との交流会に参加した。サラマンカ大学でのスペイン語研修期間は3月1日～21日で、22日は本学のもう1つの提携校であるカルロスⅢ世大学をマドリードで訪問した。

基本的な1日の流れは第1回研修と同様であるが、異なっていた点は、第2回研修が実施された3月は午後の文化アクティビティがなかったこと、1日の授業時間は4時間であったこと、初日のプレースメントテスト終了後に翌日からの授業時間が10時～14時に突然変更されたこと、日本語が話せるスペイン人学生ボランティアチューターを配置したことなどである。

3. 出発前準備

両研修出発前に、事前オリエンテーションを

2回～4回実施した。このうちの2～3回では研修旅行企画会社の担当者による一般的な旅行説明がなされるとともに、担当教員からは研修の目的が単なる海外旅行や異文化体験ではないことやスペイン語能力の向上と文化が異なる社会での生活を通して学んだことを将来のキャリアにどのように活かすかを各自が具体的に目標として定めることの重要性が説明された。また、現地で安全に滞在するために必要な知識・情報も提供された。そして、出発までに現地のホームステイで必要となる語彙・表現集を各自が想定し、作成する課題が課された。出発直前には、1日の集中講習を実施し、各自が研修参加の目標を明確に設定し、未習表現・文法のうち、命令法、接続法現在形、スリや交通事故等にあった場合のスペイン語表現、日・西の習慣・行動規範の異なりについて学んだ。

しかしながら、第1回研修では、出発前にホストファミリーとの生活で必要となる表現、例えば、シャワーや電化製品使用の許可を求めたり、洗濯や食事のルールを尋ねたりするスペイン語表現を想定して準備してきたのは1名のみで、大半はレストランや買い物場面しか想定していなかった。このことから、事前準備の段階で、サラマンカで学生たちは自らが置かれる状況について想像できていなかった可能性があり、事前準備における指導面の課題として浮き彫りになった。このような第1回の準備状況を踏まえ、第2回研修の出発前には、火曜日の5限に自由参加で実施されるスペイン語チャレンジクラスに出席することをサラマンカ研修参加の条件とした。1年生のスペイン語カリキュラムで未習の直接法点過去形、線過去形、現在完了形並びに接続法現在形を導入・練習し、サラマンカでのスペイン語コミュニケーションの幅を広げられるよう努めた。また、5名の参加者が11月からサラマンカ大学翻訳通訳学科の日本語を履修する学生とメール交換プロジェクトに参加し、サラマンカ到着時には現地に「友人」ができている状況を準備した。

4. スペイン言語・文化コース

本研修プログラムの中核をなすクラスで、毎日全員が一度も欠席することなく参加し、最終日には全員が修了証書を授与された。学生は、日本語を介さずにスペイン語をスペイン語で学ぶという直接法の授業を経験し、初日は教師が話していることがほとんどわからなかったが、日がたつにつれ聞き取れるようになり、大きな達成感を感じた様子が窺えた。初日にプレースメントテストが実施され、レベル別クラス編成がなされた。1・2限は「文法」、初級は3限に「語彙強化」、4限に「コミュニケーション活動」、中上級は3限に「会話・作文」、4限に「スペイン文化」を受講した。第1回研修は3コマ、第2回研修は4コマ履修した。

4.1. 第1回研修参加アンケート結果

クラスは10人～15人程度で、日本人学生が6割～7割をしめていた。13人全員が回答した参加アンケート結果では、1日3時間の授業時間数について11人が「適当であった」と感じている。スペイン語クラスのレベルについては、7人が「適当であった」、3人が「少し易しかった」、3人が「少し難しかった」を選択している。スペイン語授業を担当した教員に関しては13人全員が「親切に熱心に教えてくれた」と回答し、否定的な項目にマークした学生はいなかった。

4.2. 第2回研修参加アンケート結果

学生数は各クラス4人～20人程度であったが、どのクラスも9割が日本人学生で構成されていた。17人全員が回答した参加アンケートの結果を見ると、1日の授業時間数が4時間であることについて11人が「適当である」と感じており、3人が「少ない」または「少し少ない」、3人が「少し多い」と回答している。スペイン語クラスのレベルについては、1人が「少し易しかった」、11人が「適当であった」、4人が「少し難しかった」、1人が「難しすぎた」と回答

している。スペイン語授業を担当した教員に関しては15人が「親切に熱心に教えてくれた」と回答した反面、9人が「良い先生と悪い先生の差が激しかった」にマークしており、「不親切で差別的な態度をとられた」や「説明がわかりにくかった」の項目にマークした学生も4人おり、第1回研修のアンケート結果に比べて否定的評価が増えていた。

5. 文化アクティビティ (第1回研修のみ)

CC.II. では夏季のみ午後に多彩な文化アクティビティが提供されている。研修期間中、スペイン舞踊、スペイン料理、カテドラル見学、貝の家見学、ストリートシアター観劇、オエステ地区アーバンギャラリー見学、ビーチバレー、トルメス川ボート遊び、市内サイクリングに希望に応じて参加した。全般に満足度は高く、特に実技・実践型のアクティビティの人気の高かった。他国から参加の留学生と親しくなる機会でもあり、国際交流ができたとの感想もあった。他方、自力でスペイン語の情報を読み分け、申し込みを行い、集合場所まで行くことが初級レベルの日本人学生には難しく、チューターセッションでのサポートがなければ参加は不可能であった。見学型アクティビティにおいても、ガイドのスペイン語が理解できず、引率教員による日本語の補足説明に頼りがちであるなど、事前準備の段階でより高いスペイン語力習得のための取り組みが必要と思われた。

6. チューターセッション

教員チューターの業務内容は、第1節で示された本研修の目的をより効果的に達成することを念頭に定めた。つまり、現地での生活上の不便や困難の解決を助ける単なるヘルパーではなく、授業の教室外でスペイン文化を学んだり地元のスペイン人と交流したりする機会を提供する、また、自文化と異なる事象や人々の言動に直面した時に、どう向き合うのか思索を促すなど、滞在中の経験が物珍しさやカルチャー

ショックで終わらないよう、グローバル市民性の形成に向けて、他者に対する敬意と寛容の姿勢を培うためのサポートが教員チューターの主な存在目的である。

セッションは1回につき約2時間、場所はサラマンカ大学日西文化センター内の教室を使用した。第1回研修の際は、午後にCC.II.の課外アクティビティがあったため、それらの日時と調整してどの学生も週最低2回参加できるように組み、アクティビティの無い第2回研修時は全員一斉参加のセッションを5回実施した。内容は週ごとに学生の必要性を考慮して工夫した。第1週目はチューターとの顔合わせを含め、現地の様子や市内の地理を掴むオリエンテーションを中心に行い、第2、3週は週末のエクスカージョンに備えての注意事項や各訪問地についての事前学習、サラマンカ市内の名所や重要な歴史的建築物の見学、またスペインの習慣や一般的マナーを学ぶクイズ大会等を行った。さらに、スペイン人との交流会も開かれたが、これについては第7節で詳述する。

これらの他、学生たちの状況やニーズによりチューターには臨機応変な対応が求められた。例えば、最終週にはコース修了試験を前に多くの学生からスペイン語文法について質問があり、その場が臨時試験勉強会となったこともあった。

アンケートや報告書では、チューター教員について、第1回研修参加者全員が「とてもよかった・よかった」と回答し、「個別に話す機会もあり、サラマンカの滞在をより有意義に過ごせた」「大学の勉強だけでなく暮らしについてのアドバイスもたくさんしてくれて助かった」等の記述が見られた。異国の初めての土地でホームステイをし、言葉の不自由さを痛感しながら異なる文化の人々に囲まれて勉強するという経験の中で、両言語・文化に精通する教員チューターの存在は多くの学生にとって意義あるものだったようだ。

第2回研修について特筆に値するのは、教員

チューター2名に加え、「学生チューター」という日本語能力が比較的高いスペイン人学生ボランティア8名を配置したことである。順天堂大生4人1グループに対し、2人学生チューターが割り当てられた。主な役割は、順天堂大生と随時連絡を取り合いサポートする、教員チューターの企画するチューターセッションを補佐する等である。順天堂大生は、上述したような内容のチューターセッションに学生チューターと共に参加し交流した。

アンケート結果では、学生チューターについて17人中14人が「よかった・とてもよかった」と答え、セッション中に円滑なコミュニケーションができたと回答している。ただし、双方の学生から「セッションが短い」「回数を増やしてほしい」との意見も多かった。また、「学校以外でもっと交流の機会が欲しかった」「次回はディスカッションをする時間だけでなく皆でご飯に行ったり出来るような企画も立てて欲しい」「それほど仲を深められなかった」等の記述もあった。また、SNSやセッション以外では交流する機会がなかったという意見も聞かれた。この結果からわかるのは、準備された場では楽しく交流できるが、自主的に交流機会を創出することができなかったということである。3週間という親しい人間関係を構築するには短いであろう時間的制約の他にどのような原因があるのか分析の価値があると思われる。

7. スペイン人学生との交流会

CC.II.のスペイン語研修コースで学ぶのは外国人だけのため、サラマンカにいても同年代のスペイン人学生と接する機会はほとんどない。その現実を踏まえ、教員チューターがサラマンカの大学の学部や日西文化センターで日本語・日本文化を学ぶスペイン人学生に呼びかけて実現したのが交流会である。1回あたり1時間半から1時間45分程度で、第1回研修では計5回、第2回研修では計3回開催した。実施にあたり、双方の学生に2つの目的を提示した。第一に、

学習言語の母語話者とのコミュニケーションを通して、その言語の知識を増やしその文化に対する理解を深めること。第二に、相手の目から自分たちの国や文化がどのように捉えられているのかを知り、自己の言語や文化を「他者の視点」から見つめることにより、グローバル市民性の構築に不可欠な異文化理解の意識を高めることである。

これらの目的達成を念頭に、教員チューターは各回異なるテーマを設定した。「お互いを知る」、「外国語と外国文化」、「私の家族、私の町」、「私の国の祭り」等である。これらは上述の目的と合わせて、双方の学生の言語レベルが初級から初中級程度であることを考慮し、CEFRの求める基準に則って、「身近な話題や活動」、「日常生活に直接関係あることや個人的な関心ごと」について会話が展開されるように考えられた。例えば、「お互いを知る」では、それぞれの国での初対面の挨拶の仕方を実践したり、出身地や趣味について質問しあったり、現地情報を収集したり、お互いの言語学習（動機や興味）について意見交換したりした。「私の家族、私の町」では、家族についての他、自分の家や住環境について両国の違いに留意しながら話し合った。また、友達や家族の家を訪問するときや、逆に自宅で訪問を受けるときのマナーや習慣について話した。

会話は、双方がそれぞれの学習言語を練習できるように、時間で使用言語を区切って展開された。つまり、まず、日本人とスペイン人混合の3～5人のグループに分かれて、提示された話題について日本語だけで10分間話す。その後、グループを替え、また10分間同じテーマについて今度はスペイン語で会話するという流れである。また、会話の終了後、スペイン人学生の助けを借りて、会話中に学んだ新しい語彙や表現をメモする時間も設けた。このやり方は非常に好評で、研修後の報告で「同じテーマについて2つの言語で話をするので、言語間での言い回しの違いやニュアンスの差といったような

ものも感じられた」と、学習方法としての有効性を示唆する意見も見られた。

運営側の難点として、第1回研修に当たる8月は、休暇中のため帰省するスペイン人学生が多く、順天堂大生の数に合わせたスペイン人学生の確保が困難ということが挙げられる。しかし、学生側からの評価は、第1、第2回研修とも高く、第1回研修参加者13人中の10人、第2回の全員が交流会を「よかった・とても良かった」と回答している。「お互いに第二言語を学習しているために、色々と刺激があった」、「自分たちより短期間しか日本語を勉強していないのに、自分のスペイン語に比べたらずっと上手に日本語を話せていた。たくさん刺激をもらえた」、「日本に帰っても連絡を取り合える仲間になれた」（以上、第1回研修参加者より）、「お互いサポートし合える仲だったから、質問しやすい環境だった」、「同年代の学生と、自分の文化や学校のこと、趣味などについて話せた」（以上、第2回参加者より）等のコメントから、同年代のスペイン人と直接スペイン語でコミュニケーションできること、また、教えてもらう一方ではなくお互いに刺激し合い学びあえることがこの交流会の良さであったと言えるだろう。他方、スペイン人学生側からも好評ではあったが、交流会以外でも触れ合う機会がほしかったと感じているようであった。

最後に、第2回研修参加者のアンケートには、「時間が短かった」、「交流会があるのはいいが、始まる時間が早かったり、終わるのが遅かったりした」、「学生チューターとの違いがわからない」等の声もあり、今後の検討課題としたい。

8. ホームステイ

ホストファミリーは、家が大学から徒歩30分以内であること、他に日本人学生を受け入れていないこと、wi-fiが完備されていることを条件として、CC.II.に予め手配を依頼した。出発前に全員がメールで自己紹介し、返信をもらった学生もいた。マドリードからバスでサラ

マンカに到着すると、CC.II.の担当者によって学生とホストファミリーが引き合わされた。学生はその時になって初めて、スペイン語だけでコミュニケーションをとらなければならない現実に気づいたようであった。不安そうな表情でファミリーと向き合っていたが、どの学生とファミリーもスペイン語でうまく意思疎通できているようには到底見えなかった。まさにこの瞬間が、それまでの観光旅行気分から一気に醒め、自力でスペイン語で生き延びていかなければならない研修生活の始まりを自覚した瞬間であったろう。3週間後に帰国のために集合場所に集まった際には、見送りに来てくれたホストファミリーとスペイン語で別れを惜しむまでに成長を遂げた姿が見られた。

第1・2回を総合して報告すると、総参加者29名中6名が2人ずつ同じ家庭に滞在し、その他は1人ずつ滞在した。参加アンケートでは、スペイン人家庭に滞在することで、日本とは全てにおいて異なる生活習慣や価値観に直接触れることができ、23人がホームステイは「よかった・とても良かった」と評価している。そして、4人が「どちらともいえない」、3人が「あまりよくなかった」と回答している。ホームステイが良かったという理由として、8割以上が「スペインでの生活様式を学べた」と「スペイン語で毎日コミュニケーションをとれた」を挙げており、「スペインの家庭料理を楽しむことができた」も7割がマークしている。悪かった点については、「食事が不十分またはおいしくなかった」に1.5割がマークし、3割が「家が遠かった」を挙げている。しかし、1割が「悪いことは何もなかった」と記述している一方、第1回研修では「ホストファミリーとはほとんど話さなかった」にマークした学生が2人いたことから、家庭によって学生への対応にばらつきがあることが見て取れる。また、電気を消し忘れたり、シャワーの時間が長かったりしたことでホストファミリーに叱られたことや、日々の暮らしの中で食事の好みなどに関する自分の意思・意向

を遠慮して伝えられなかったことが失敗談として挙げられている。午前中スペイン語クラスで習ったことを駆使して昼食時に会話を楽しんだ参加者が多かったようである。全般的に、ホームステイは、個人差はあれども、スペイン人の暮らしに直接触れ、スペイン語で異なる生活様式や価値観を学ぶ有意義な機会であったと思われる。

第1回研修では引率者は9軒のホストファミリー宅のうち8軒を家庭訪問し、学生がどのように過ごしているかを確認した。ほとんどのホストファミリーは、外国人の受け入れ経験が豊富で、外国人留学生を滞在させる第一の目的は経済的収入である家庭が多かったが、積極的に学生に話しかけるなど学生が快適で健康的に滞在できるように配慮されていたと感じた。

9. サラマンカ大学主催エクスカージョン

エクスカージョンとはサラマンカ大学が主催する週末の遠足／小旅行のことである。スペインの他都市を訪問し、歴史や文化、芸術の知識を深めるだけでなく、各地域の特性や風習を実際に体験することを目的としている。移動や訪問地の手配・進行等は全てサラマンカ大学側に委ねられ、スペイン語ガイドが同行する。順天堂グループは言語が問題で危険にさらされる事態を防ぐために引率教員またはチューター教員1名が同行した。エクスカージョンの集合時間は朝6時～8時ごろという早朝であるため、学生たちは自力でタクシーを呼び、2～3名で乗り合わせて集合場所に行くという大きな試練があった。

第1回研修では、8月13日（土）にセゴビアとラ・グランハへ、14日（日）に順天堂グループのみでアビラへ遠足、そして19日（金）から21日（日）まで2泊3日でポルトガルへの小旅行に参加した。セゴビアはローマ時代の水道橋やディズニーの『白雪姫』のお城のモデルになったアルカサル（アラブ人の城）がある。アビラは街をぐるりと取囲む城壁で有名で、い

ずれも世界遺産指定都市である。第2回研修では3月10日から12日のアンダルシア旅行（セビーリャ・グラナダ）と3月18日のレオン・サモラ遠足に参加した。セビーリャ・グラナダはスペイン史上、最も重要な都市の1つと言われ、様々な宗教が融合された文化都市である。また、旧レオン王国の首都であるレオンやサモラはサラマンカと同自治州に属するも、その景観や風習は大きく異なる。

参加アンケートによると、エクスカージョンは全体的に人気が高く、約7割の学生が3以上の肯定的評価を付けている。各自が実体験を通して歴史や文化の知識を深めることができたという意見や積極的にスペイン語を使って自由時間を有意義に使えたという意見も多数あった。

否定的な回答としてはバスでの長時間移動や、スペイン語ガイドの説明を炎天下で聞くことが苦痛であったこと、自由時間が少なかったことなどが自由記述で記載されている。また、第1回の参加者は遠足中、他国の学生とも打ち解け友人になれたことを喜ぶ記載があったが、第2回の参加者からは同行した米国人学生グループとの交流回避やバスの同席に対する拒否感を示す意見もあったことは懸念すべき点であると思われる。

全体として、エクスカージョンはサラマンカとは異なる街を訪れ、スペインの歴史的建造物を見学し、社会・文化的知識を習得できることから意義がある。しかし、学生側は、事前に日本でスペインの歴史等について十分学んでおらず、また、同行するスペイン人ガイドは、外国語としてのスペイン語教育専門家ではないため、スペイン語初級の学習者に対する話し方に配慮がなされず、専門的な用語を用いた説明に終始し、よって、参加者の理解度が低いという傾向がみられた。その結果、ガイドの説明中、集中力を失い上の空であったり、写真を撮りにいこうとしたりする学生もおり、スペイン語理解に対する諦めの姿勢が随所で見られた。これらの点は今後対策を検討する必要があると思わ

れる。

10. 考察とまとめ

ここまで、2回にわたって実施したサラマンカ研修についてアンケート結果等を引用しながら報告してきた。本研修プログラムがグローバル市民性の形成にどのように関わりうるかについて最終報告書の記載を参照しながら考察する。

参加者Aはサラマンカ研修がスペイン語授業で学んだことを教室外の会話で実際に用いてコミュニケーションをとることができるイメージ状況の長所を意識し、自らに課題を課し遂行し、「ホストマザーやスペイン人学生、先生、隣人などとの会話を通じて伝えたいことを伝える『挑戦』から『成功』そしてそれをまた次の『挑戦』へとうまくつなげることができたと感じる」と記している。すなわち、自らの「挑戦」が「成功」体験となり自信を得て、また新たな「挑戦」に挑むというサイクルを繰り返しながら3週間を過ごしたという自負・達成感がうかがわれる。

参加者Bは、「ホストファミリーがシングルマザーであったが、スペインでは一般的だと知り驚いた」と記している。つまり、スペインの社会・文化の現状を知り、自文化とは異なる規範価値が存在する社会があることを学び、自己が有していた「常識」がスペインでは共有されていないことを知る経験をした。この記述だけでは判断できないが、自文化中心主義から脱し、柔軟な思考・判断力を培う経験となった可能性はあるだろう。

そして、「言葉が通じないということがこれほど辛いものなのかを経験した」と書いた参加者Cは、帰国後、日本で暮らす外国人に対する眼差しが変わったと述べてもおり、明らかにサラマンカ研修に参加したことにより、他者の立場を思いやる眼差しを習得している。さらには、交流会で日本語を学ぶスペイン人が質問をする姿を見て、言語は異なれども同じ道を歩む

ものとして刺激を受けたという感想もあった。そして、「日本を再発見した」や、「日本の（こと）を説明するのに思ったことが言えなかった」との記載もあり、日本語学習者のスペイン人学生との接触を通して、自文化を見つめ直す経験をしたことを示唆している。

このように、サラマンカ研修がスペイン言語・文化講習、チューターセッション・交流会、ホームステイ、エクスカージョン等、複層的な内容で構成されているおかげで、自文化とは異なる社会・文化の習慣・規範を知り、様々な事象に対する複数の交差する眼差しの存在を意識し、他者への敬意と寛容性の基盤を培う機会として機能する可能性が高いことが窺える。

他方、サラマンカ研修を観光旅行の延長線上に位置づける参加者がいたことも事実である。さらには、3週間という限られたスペイン滞在での経験を一般化し、ステレオタイプ化してしまう危険も排除できない。本研修をグローバル市民性形成のための有意義な機会にするためには、サラマンカ研修の前・後に適切なプログラム導入を検討する必要があると思われる。

註

- 1) 本稿は教員チューターを務め、チュータープログラム設計を担当したルイス、加藤、木村と研修プログラム全体の設計を担当し引率した吉田が、各々が担当した項目について執筆した。
- 2) 各家庭1人のホームステイが原則であったが、1人では不安だという学生が1回目に2組、2回目に1組おり、2人でステイした。

引用文献

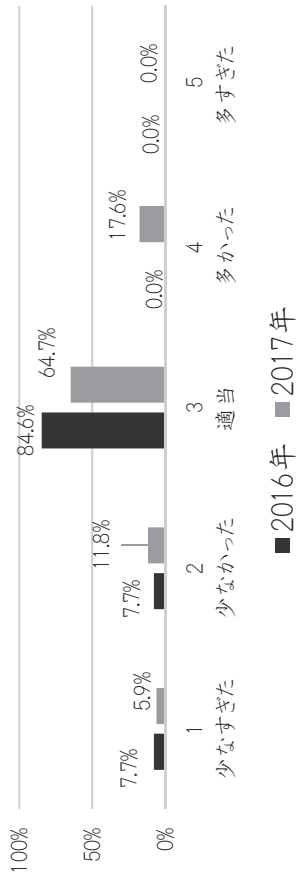
- トリム, J. L. M. (2014). 『外国語教育 II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 追補版』(吉島茂・大橋理枝・編訳)朝日出版社. [原著: Trim, J., North, B., & Coste, D. (2002). *Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment. (3rd printing)*, Cambridge: Cambridge University Press.]
- UNESCO (2014). *Global citizenship education: Preparing learners for the challenges of the 21st Century*. Paris, UNESCO. (<http://unesdoc.unesco.org/images/0022/002277/227729E.pdf>より情報取得 2017年12月1日)

資料1 サラマンカ研修チューターセッション・プログラム (☆印は順天堂オリジナルプログラム)

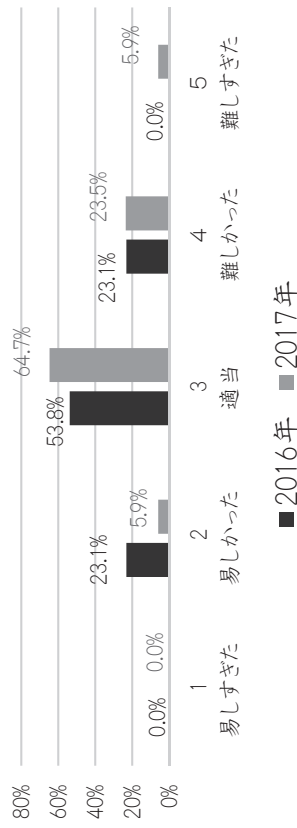
| 2016年第1回研修 | | 2017年第2回研修 | |
|-------------|--|--|---|
| 8月8日(月) | ☆17:30-19:45 | ☆チューターセッション(全員) チューターと顔合わせ | ☆チューターセッション 学生ポランティアイチャーターと顔合わせ ☆16:00-18:00 |
| 9日(火) | ①16:30-18:00 ②17:00-18:30 ☆19:00-20:00 | ①CC.II主催スペイン料理教室(8名) ②CC.II主催スペイン舞踊教室(5名) ☆日本サラマンカ大学友の会現地派遣員によるオリエンテーション(全員) | ☆日本サラマンカ大学友の会現地派遣員によるオリエンテーション ☆18:15-19:15 |
| 10日(水) | ①16:30-18:00 ②17:00-18:30 ③17:30-19:30 ☆18:45-20:00 | ①CC.II主催スペイン料理教室(5名) ②CC.II主催スペイン舞踊教室(3名) ③CC.II主催アクセサリー教室(4名) ☆チューターセッション(9名) サラマンカ市内の地理、週末遠足のセゴビアとアビラについて予習。当日朝の集合についてタクシーの呼び方等をスペイン語で練習。 | 大学見学(CC.II主催) 16:00-17:00 |
| 11日(木) | ①16:30-18:00 ②17:00-18:30 ☆18:45-20:00 | ①CC.II主催スペイン料理教室(8名) ②CC.II主催スペイン舞踊教室(5名) ☆チューターセッション(4名) 参加者が異なるため前日と同内容 | ☆スペイン人学生交流会(言語) ☆18:00-19:45 |
| 13日(土) | 8:00～終日 | CC.II主催セゴビア、ラ・グランハ 日帰り研修(全員) | ☆チューターセッション 学生チューターとクレレシアア塔見学 ☆10:30- |
| 14日(日) | ☆10:00～終日 | ☆アビラ 日帰り研修(全員) | ☆15:30-17:00 |
| 15日(月) | ☆18:00-19:30 | ☆チューターセッション(全員) 市内散策後、クイズ大会 | ☆チューターセッション 週末遠足のオリエンテーション ☆16:00-17:00 |
| 16日(火) | ①16:45-18:00 ②17:00-18:30 ③19:30-20:30 | ①CC.II主催市内見学(8名) ②CC.II主催スペイン舞踊教室(5名) ③CC.II主催オエステラ地区見学ツアー(4名) | CC.II.主催アンダルシア研修旅行(☆チューター教員同行) 7:00 |
| 17日(水) | ①17:00-18:30 ②19:00-20:00 ☆18:45-20:00 | ①CC.II主催スペイン舞踊教室(5名) ②CC.II主催ビーチパレー(9名) ☆スペイン人日本語学習者との交流会(4名+スペイン人学生4名)(日本語・スペイン語で初対面の挨拶、情報交換) | カテドラル見学(CC.II主催) ☆スペイン人学生交流会(言語) 16:00- ☆18:00-19:15 |
| 18日(木) | ①17:00-18:30 ☆18:45-20:00 | ①CC.II主催スペイン舞踊教室(5名) ☆スペイン人日本語学習者との交流会(全員+スペイン人学生9名)(日本語・スペイン語で初対面の挨拶、情報交換) | ☆チューターセッション 週末遠足のオリエンテーション ☆16:00-17:00 |
| 19-21日(金-日) | 7:00～終日 | CC.II主催ポルトガル研修旅行(全員) | レオン・サモラ日帰り研修(☆チューター教員同行) ☆チューターセッション送別会 8:00～終日 ☆17:00-19:00 |
| 22日(月) | ☆12:15-13:00 ☆18:45-19:30 ☆18:45-20:00 | ☆チューターセッション 大学見学(4名) ☆チューターセッション カテドラル見学(8名) ☆スペイン人日本語学習者との交流会(7名+スペイン人学生5名)(日本語・スペイン語で「外国語と外国文化」について会話する) | |
| 23日(火) | ☆12:15-13:00 ☆18:45-19:30 ☆18:45-20:00 | ☆チューターセッション 大学見学(4名) ☆チューターセッション カテドラル見学(4名) ☆スペイン人日本語学習者との交流会(4名+スペイン人学生3名)(日本語・スペイン語で「私の家族」について会話する) | ☆順天堂大学研修成果報告会 10:00-13:00 |
| 24日(水) | ①18:00-20:00 ☆18:45-20:00 | ①CC.II主催トルメス川ボート遊び(7名)(チューター同行) ☆スペイン人日本語学習者との交流会(9名+スペイン人学生8名)(日本語・スペイン語で文化・常識クイズ) | サラマンカ出発 ☆カルロスIII世大学見学、ソフィア王妃芸術センター、ブラド美術館またはペルナバウスタジアム見学 8:00 |
| 25日(木) | ☆12:00-13:00 ①18:20-20:00 | ☆チューターセッション・プログラムのフィードバック ①CC.II主催市内サイクリング(3名)(チューター同行) | |

資料2 参加アンケート結果（抜粋）

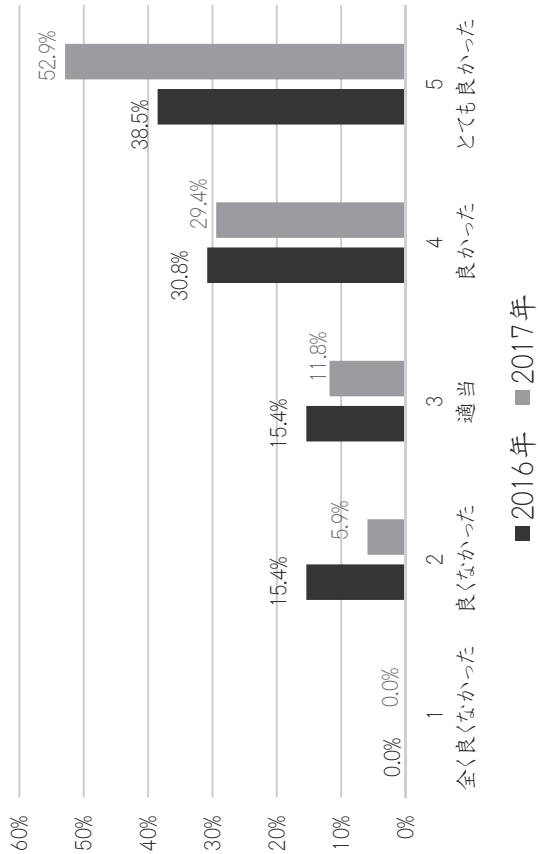
西語授業時間数：3時間（2016年）・4時間（2017年）



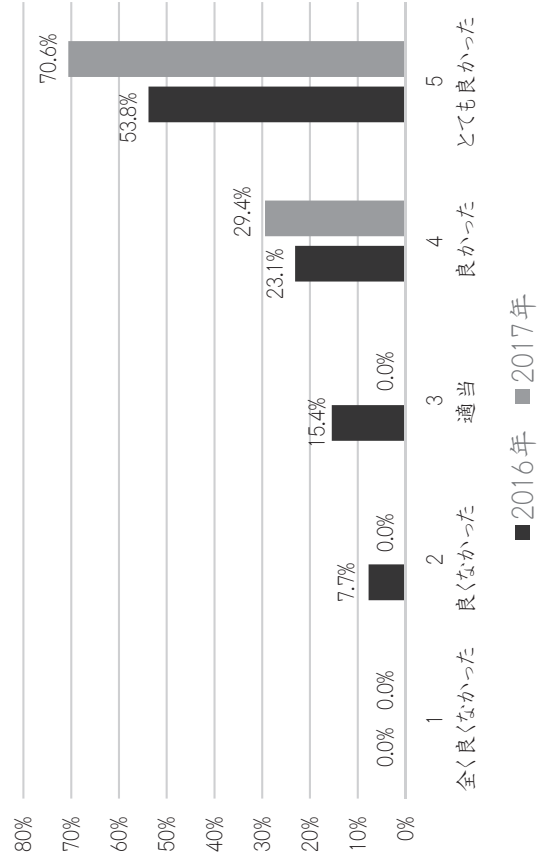
西語クラスのレベル



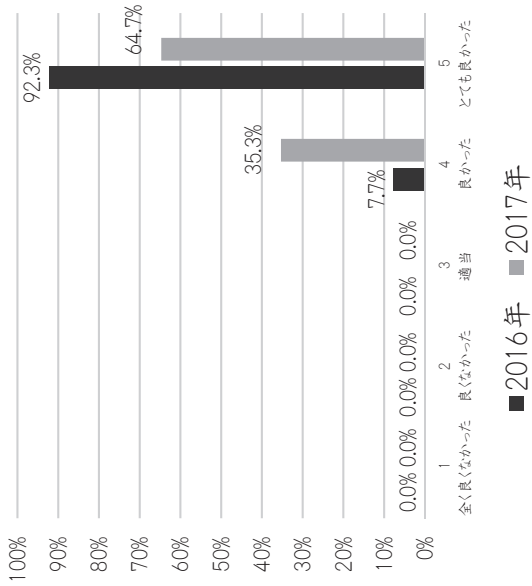
ホームステイ



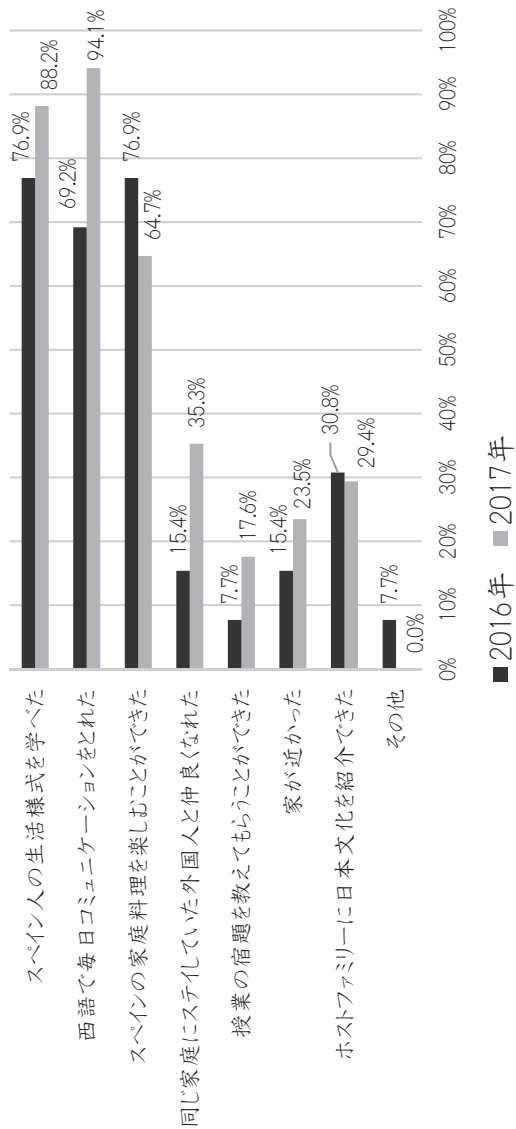
スペイン人学生との交流会



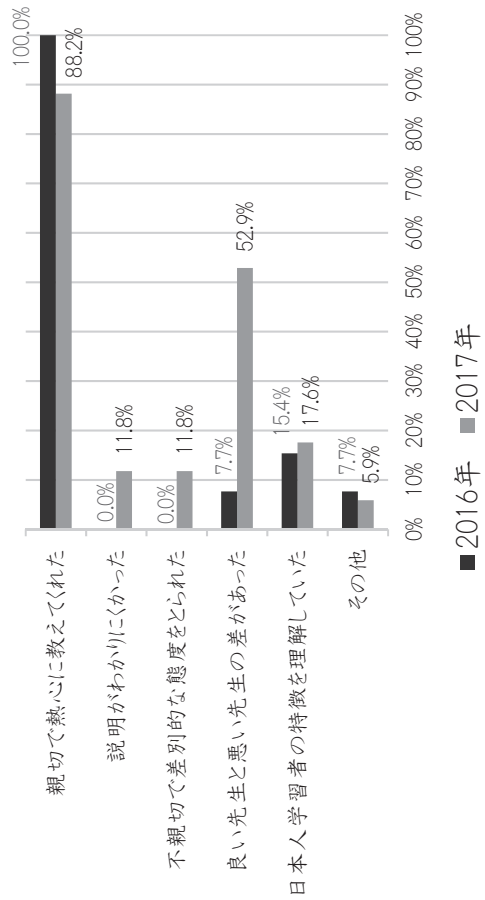
バイリンガルのチューター教員



ホームステイの良かった点



西語の先生(複数回答可)



ホームステイの悪かった点

